

果実販売動向

販売課 田村 慎平



平素よりJA相馬村フルーツステーションをご利用いただき誠にありがとうございます。

9月の果実販売動向ですが、月の中旬頃から売場での桃、スイカ、メロン等の夏果実から、柿、ブドウ、梨等の秋果実への本格的な切り替わりが見られました。

桃については前半に本県産川中島が本格化を迎え、他県産の切上りが早かったこと、気温の高さによる引き合いが強い状況が続いたため、安定した販売で高値基調での推移となりました。

スイカ、メロンに関しては終盤を迎え売場が縮小傾向となったものの、総体量の少なさから堅調な販売となりました。

月の後半からは秋果実がメインとなっており、柿に関しては、福岡県産および和歌山県産の極早生品種が中心となり、着色遅れの影響から当初の見込みより下回る量の出荷となりましたが、末端では安定した引き合いから堅調な販売

となりました。

ブドウについてはシャインマスカットを中心に売場は広く確保されており、食味も好評だったため活発な動きが続き、価格も堅調な販売となりました。

梨に関しては各産地とも前進出荷ではありませんでしたが、凍霜害の影響などで総体量は少ない状況が続きました。特に連休に向けての時期は一時引き合いが強い時期もありました。

そのような中、リンゴに関しては、

サンツがるは、月の前半は高温が続いた影響で各県とも出荷が遅れ、入荷量の少なさと下位等級品比率の高さから売場の拡大は進みませんでした。価格は弱含みでの販売となりましたが、上位等級品は引き合いが強く、高値基調での販売となりました。月の中旬からは本県産の出荷が本格化したものの、他県産の切上りが早く、総体

量が少ない状況が続いたため売場は狭く、売価も高めに設定されていることから末端での荷動きが鈍くなりました。さらに、下位等級品に関してはオセ・軟質果等の品質低下も見られたことから弱含みの販売が続きました。しかし、最終週のころには出荷が終盤を迎え、総体量が少なくなっており、高値基調での販売となりました。

きおうに関しては、サンツがるに比べ安定した出荷となり、価格はやや下げ基調だったものの、安定した荷動きとなりました。

今後、本県産早生ふじの出荷が始まりますが、数量は例年より少ないことが予想されます。

売場では、不足感のある状況が続く見込みで、企画の組まれやすい36玉・40玉を中心に強い引き合いとなる見込みです。その為、高値基調での販売が予想されますが、本年度は夏場の高温の影響が様々なところへ及んでおり、例年になく販売が厳しい状況となっております。総体量の少なさによる高値基調にも一喜一憂せず、少しでも有利販売が出来るよう努めてまいります。

JA全農あおもりデータ（9／28 累計）

品 種	つがる	きおう	ト キ	その他	合 計
単 価 (円)	3,490	3,125	3,522	3,377	3,400
前 年 比 (%)	134	117	93	115	129
販売数量 (箱)	439,421	141,664	1,507	39,167	621,759
前 年 比 (%)	66	99	7	70	72

生産情報

農業振興課主任 齊藤 大貴



●温暖な天候が影響及ぼす

りんごの果実肥大は玉傾向で進んでいたものの、夏場の高温・干ばつの影響により平年並みくらいにまで落ち着いています。また、本年は着色よりも熟度が先行している状況が伺えるほか、高温の影響から日やけ果や収穫前落果が例年よりも多く見受けられます。収穫前落果が著しい場合は、当JA農業振興課において熟度調査を実施し、販売課と協議の上、入庫に係る判断を致しますので、ご相談下さるようお願い申し上げます。

中生種の収穫や晩生種の着色管理が最盛期を迎える中、農作業事故には十分注意し、安全第一でリンゴ作業に努めて下さるようお願い致します。

一方、病害虫の発生状況を振り返って見ますと、温暖な天候により、ハダニ類及びチヨウ目の発生が早くから目立ちました。特に、ハダニ類については、気温が8月下旬まで高く推移したことから多発傾向と

●野鳥被害目立つ

なりました。しかしながら、9月上旬以降、夜温も下がり始め、ハダニ類の発生は一気に終息へ向かいました。本年は多発傾向にあったことから、果実に付着していないことを十分に確認しながら山選果を実施しましょう。また、収穫した果実はその日の内に入庫することを心掛け、鮮度維持に努めましょう。さらに、リンゴの盗難に注意が必要な時期となりました。園地での野積みは絶対に避けるようお願いします。

鳥獣保護法により、原則的に保護したり殺したりすることが禁止されています。防止対策としては忌避する方法のみとなっています。釣り糸を張り巡らす場合は、鳥の種類に合わせた間隔（カラスの場合は1m以下）で張るようにしなす。尚、ヒヨドリの場合は体高が小さく、飛行能力が高いため、効果が低いとされています。さらに、音声機器や爆音機などの防鳥器具は慣れが生じやすいため、様々

な器具を組み合わせながら短期間で変えることも重要です。

●積雪前の野ネズミ対策

園地が汚れていると、野ネズミの侵入が容易になり、被害を受けやすいため園地をいつも清潔にすることが大切です。生息密度低下のため、殺剤と忌避剤を併用した対策に努めましょう。

・忌避剤による防止

(1) アンレスの10倍液を樹幹部に塗布又は散布する。

※使用するときは、噴口のつまりを防ぐため、よく練ってから希釈をおこないましょう。また、24時間降雨等ないことを見越して使用してください。

(2) 根雪前、樹幹下半径50cmの範囲の落葉、雑草等をあらかじめ取り除いた後、フジワン粒剤を1樹当たり200g均一に散布し、表土とよく混和する。

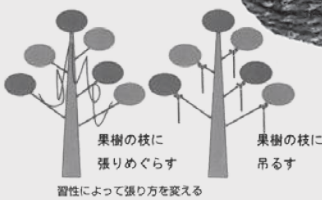
・被害の回避

樹幹に対する野ネズミの被害は成木よりも若木に多いため、苗木及び若木は晩秋に地上1m位の高さまで合成樹皮のプロテクターなどの被覆資材を巻きつけて下さい(積雪の深いところでは更に上まで)。

湯口支所購買課にて取扱い販売中!

野鳥被害防止に!

どうぶつロープ



日本農産 (ハーブ含浸有機資材/どうぶつロープ) (nihonnousan.jp)

独特の臭いで動物をシャットアウト!!
ハーブを混合させた椰子繊維のロープで、動物被害から作物を守ります。果樹の枝に吊るしたり張り巡らせて使用して下さい。

価格: 7,980円 (10/1現在)

キラリと光る アイデア工作展示

9月下旬より、当JA本所入り口に、弘前市立相馬小学校3、4年生の児童12名の『廃品を利用した工作』が飾られている。

金賞を受賞した4年生の成田幸冬（こと）さんは「パソコンで調べて作った。キレイにできて嬉しい」と笑顔で話した。

例年「あいさつ運動ポスター」を展示していたが、今年はSDGsを意識して自由な発想で取り組める工作へとテーマを変えた。10月27日まで展示予定。PTA会長の溝江友貴さんは「子ども達の発想力はすごい。ぜひみなさんに作品を見てもらいたい」と話した。



ペットボトルを利用したランプシェード（成田さん作）他にも工夫を凝らした作品がいっぱい！

地元産業に理解深める

9月19日、相馬小学校2年生が当JA販売課を訪れ、本所フルーツステーションを見学した。

児童4名は、リンゴがバーコード式フリートレイで運ばれる様子や、フォークリフトの効率的な動きを興味深く見詰め、大型のロボット機械が段ボールをコンテナに積む様子に目を輝かせていた。

販売課田村慎平さんは「農家が育てたリンゴを、新鮮な状態でお客様に食べてもらえるようにここで管理しています」と説明。

「田村さんは何の果物が好きですか」の問いに

「実は桃が好きです」と答え笑いがり起るなど、児童らは和やかな雰囲気の中、学びを深めた。



「ロボットがすごかった」と目を輝かせていた三浦琉生くん（左）ら児童4名

令和5年産米初検査

9月22日、令和5年産『青天の霹靂』の初検査が、JA全農あおもり職員や当JA職員ら13名が見守る中、行われた。乾燥を終えた5フレコンが水分、整粒、被害粒、未熟粒などの項目をクリアし、一等米に格付けされた。ただ本年産の米は夏場の高温の影響からあまり出来が良いとは言えず、今後は二等米に格付けする可能性もあるという。

ライスロマンクラブの新米刈取りは東部班、牡丹班とも9月9日から始まり、22日で終了した。



関係者が見守る中、初検査が行われた

ベトナム向けリンゴ 収穫前検査

10月2・3日、晩生種のベトナム検査検査が行われた。農林水産省の防疫官、JA全農あおもり、当JA職員が管内17名の組合員の登録樹のある園地をまわり、薬剤散布や病害虫について園主へ確認するなどして無事検査が終了した。

ベトナムへの主な出荷条件は、園地及び選果こん包施設の登録、園地検査、袋かけなどの園地管理である。

大場一司さんは「今年は夏の高温で大変だが、それなりに収穫できそう。しっかり管理し安心安全なものを届けたい」と話した。



防疫官と内容を共有する大場さん